

昭和30年代の 暮らし映画特集



昭和30年代は貧しくも心豊かな時代だったと言われる。そこにあるのは、誰しもの記憶に焼きついているような懐かしい光景。日々の家事をはじめ、衣食住は手仕事によって形づくられ、さまざま手を動かしながら関わり合う人々の姿があった。高度経済成長を経て世の中は便利になり、家事は機械化され、生活から手仕事が少しずつ消えていった。同時に公害が増え、現在にまで続くエネルギー問題、気候変動の引き金ともなった時代であった。そうしてたどり着いた今、便利さを追求する一方で、アナログな、手触りのあるモノの良さを再発見する動きも見られるようになった。記録映像に残されたかつての生活の現場から、これからの暮らしにピッタリなひとコマが見つかるかもしれない。



『母の手仕事—日々の暮らしの記録』 カラー／75分（予定）

構成・編集：井上実 演出：時枝俊江 撮影：岩田まき子 中井正義 照明：長谷川伸夫

小泉スズさんの家事は「スズさん—昭和の家事と家族の物語」に一部紹介されましたがもっと詳しく見たいという要望に応じて新たな視点で家事のみを再編集した家事詳細版です。記録映画作家・時枝俊江さんが残した1990年から3年間かけた11時間及び映像は昭和30年代まで

はこの家庭で普通に見られた家事です。しかし、主婦の手仕事は形として残らないもので、あたりまえの日々の暮らしはほとんど記録されていません。この母の手仕事の記録は失われた日本の生活誌でもあり、女性史の一具体例として見るができます。



昭和30年代の暮らしを描いた短編映画特集

Aプログラム／岩波映画製作所「主婦の暮らし」（モノクロ／89分）

「町と下水」

1953年／21分 演出：羽仁進 撮影：藤瀬季彦

人口が都市に集中し始めると住宅地は郊外に広がったが水道、下水、ガス等のインフラ整備は追いつかずスズさんの家も水洗トイレになったのは昭和51年(1976)であった。



「町の政治—べんきょうするお母さん—」

1957年／31分 演出：時枝俊江 撮影：藤瀬季彦

郊外住宅に住む主婦たちが身近な問題をめぐり市政に関心を持ち、政治に参加することで問題解決を目指す。民主主義を啓蒙する公民館運動が支えた。時枝監督のデビュー作。



「路地のある街」

1956年／11分 演出：京極高英 撮影：小村静夫

昔も都市生活のゴミ問題は深刻であった。家庭から出た生ゴミは庭に埋めが多くは川や空き地に不法投棄されハエやネズミによる非衛生は社会問題であった。



「村の婦人学級」

1957年／26分 演出：羽田澄子 撮影：小村静夫

農村部でも戦後の民主化の波が押し寄せていた。農家で小さくなっていった主婦が婦人学級に集まり自分の意見を持ち、発言していく母たちを描いた。羽田監督のデビュー作。



Bプログラム／桜映画社「都会の暮らし」（モノクロ／86分）

「おやつ」

1955年 21分 監督：西岡豊 撮影：牛山邦一
戦後のベビーブームの中で子どもに安全で衛生的なおやつをどう与えるのか。駄菓子や紙芝居等、当時の子どもの夢が生きて記録されている。



「おやじの日曜日」

1959年 29分 監督：金子精吾 撮影：佐藤昌道

まだまだ家長制度が残る都市の工場労働者一家の日曜日。家族が父親に仕掛けるサプライズに変わりゆく父親像と家族の姿を見ることができる。



「遊び場のない子どもたち」

1965年 36分 監督・撮影：菊地周

高度経済成長に突き進む日本社会。その中で大人も子供も元気いっぱいだった。たくましく遊び場を求めて遊ぶわんぱく少年たち。携帯ゲームは無かったがワイルドであった。



Cプログラム／英映画社「住宅問題」（カラー／61分）

「スラム」

1962年 34分 監督：新井英郎 撮影：江馬民雄

スズさん一家が狭いながらも小さな家を持てた反面まだ敗戦から高度成長にも取り残された人々はまだ劣悪な住宅生活を強いられていた。日本にもスラム街があった時代。



「新しい街」

1964年 27分
庶民の住まいは小さな戸建住宅やアパートから団地と呼ばれた集合住宅へ移行していく。団地生活は庶民のあこがれであったが昭和30年代も後半になるとデベロッパーと呼ばれる開発業者によりマンションと呼ばれる建設が始まった。人々のくらしは地面から離れ空に伸びていく。



Dプログラム／記録映画社「農村の暮らし」（モノクロ／62分）

「おふくろのバス旅行」

1957年 21分 監督：菅家陳彦 撮影：江連高元

農村の民主化は各地にできた青年団活動が後押しした。村の青年たちが母たちをバス旅行に送り出す企画を考えた。まだ村には青年がたくさんいた時代だった。



「刈干切り唄」

1959年 41分 監督：上野耕三 撮影：金山雷男

古くから唄い継がれた民謡「刈干切り唄」で有名な天孫降臨の伝説の地、宮崎県日向の高千穂地方のどかな農村の暮らし。まだ地方には人々のたくましい生活があった。



11/27(土) ~ 12/10(金)

料金：一般1500円／大学・専門・シニア1200円
★「スズさん」半券提示で1000円！（窓口でのみ有効／web決済では使用不可）

11/27 (土)	11/28 (日)	11/29 (月)	11/30 (火)	12/1 (水)	12/2 (木)	12/3 (金)	12/4 (土)	12/5 (日)	12/6 (月)	12/7 (火)	12/8 (水)	12/9 (木)	12/10 (金)
14:00						13:30							
母	A	母	B	母	D	母	C	母	A	B	C	D	母

ポレポレ東中野

03 3371 0088
pole2.co.jp

母…『母の手仕事—日々の暮らしの記録』 ABCD…上記各プログラム